

# 母乳とダイオキシン

山口医院 山口進久 先生

母乳は、血液から乳腺細胞の働きによって作られる過程で脂肪がおよそ10倍に濃縮されていきます。特に初乳には多くの蛋白質と免疫グロブリンが含まれていますが成乳になるにつれて蛋白質は減り、子供の成長を促す乳糖と脂肪が多くなっていきます。

ところで大気や食べ物を経て体内に入ったダイオキシンは、血液によって体内を循環し脂肪組織に蓄積します。そのため母乳にもダイオキシンが濃縮され含まれることは、各種メディアでもしばしば取り上げられ乳幼児の発育、小児期や成人期への影響の不安は、社会問題化しているのが現状です。

ダイオキシンには、体内残留性、蓄積性があり、その結果母乳中に非常に高濃度に含まれ、乳児の摂取量は、50-100pg/kg/dayとなり、欧米でも同様の数値を示しています。日本におけるダイオキシン耐容一日摂取量 5-10pg/kg/dayという基準(厚生省)からみてもはるかに超過しています。母乳哺乳児と人工乳児の血液中の濃度を比較すると、母乳児の方が高値を示しています。人工乳児に検出した分は、胎盤を経由したと考えられます。

しかし、種々の研究成績から母乳を禁止あるいは制限するだけのデータはなく母乳が大切な栄養源であることには変わりありません。そこで今後母乳の安全性を確保していくために、発生源等についての適切な施策を進め、母親のダイオキシン摂取を抑えること及びその排泄を促す物質が抹茶や緑茶に含まれているという研究にも期待したいと思います。

※pg(ピコグラム) =  $10^{-12}$  グラム

編集より: 岩波ブックレット No.482「母乳とダイオキシン」440 円。(消費税別) 日母ネット: 山口千穂先生からの情報です。